

安全データシート

作成2022/5/14

改訂2024/6/1

1. 化学品及び会社情報
- 製品名 : HI-SPECシールL (CPタイプ)【主剤】
- 会社名 : 株式会社アイゾールテクニカ
- 住所 : 京都府京都市左京区岩倉三宅町335番地
- 担当部門 : 開発企画本部
- 電話番号 : 075-757-8199
- FAX番号 : 075-366-3569
- 緊急連絡先 : 075-757-8199
- 奨励用途と使用上の制限 : 工業用(防水材 等)
- 整理番号 :
2. 危険有害性の要約
- 重要な危険有害性及び影響 : アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- GHS分類
- 物理化学的危険性
- 引火性液体 : 区分に該当しない
- 健康に対する有害性
- 急性毒性 (経口) : 区分に該当しない
- (経皮) : 区分に該当しない
- (吸入; 気体) : 区分に該当しない(分類対象外)
- (吸入; 蒸気) : 区分に該当しない
- (吸入; 粉じん及びミスト) : 区分に該当しない
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
- 眼損傷性及び眼刺激性 : 区分2
- 呼吸器感作性 : 区分に該当しない
- 皮膚感作性 : 区分1
- 生殖細胞変異原生 : 区分に該当しない
- 発ガン性 : 区分に該当しない
- 生殖毒性 : 区分に該当しない
- 授乳に対する又は授乳を介した影響 : 分類できない
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
- 誤えん有害性 : 区分に該当しない
- 環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分2
- 水性環境有害性 長期(慢性) : 区分2
- オゾン層への有害性 : 分類できない

GHSラベル要素

絵表示

:



注意喚起語

:

警告

危険有害性情報

:

皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

[安全対策]

:

使用前に取扱説明書を入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をさけること。

環境への放出を避けること。

[応急措置]

:

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーと石鹼で洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること。

特別な処置が必要である(この SDS の 4. 応急措置を参照)。

医師の診断/手当を受けること。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当を受けること。

漏出物を回収すること。

[保管]

:

容器を密閉して、換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

[廃棄]

:

内容物/容器を廃棄する時は、関係省令に基づき、自社で適正に処理するか又は廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分

:

混合物

成分及び含有量

:

① ビスフェノールA型エポキシ樹脂 20~30%

② ビスフェノール-F-ジグリシジルエーテル 5~15%

化学式又は構造式

:

① -

② $C_{10}H_{13}ClO_3$

官報公示整理番号(化審法)

:

① (7)-1279

② (7)-1285

官報公示整理番号(安衛法)

:

①~②既存

CAS番号

:

① 25068-38-6

② 9003-36-5

4. 応急措置

吸入した場合

:

新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、直ちに医師の処置を受ける。必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

:

多量の水および石鹼で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合

:

直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

:

水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。

- を受ける。被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。
- 応急措置をする者の保護 : 救済者は、ゴム手袋、ゴーグル等の適切な保護具を着用する。
5. 火災時の措置
- 消火剤 : 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状砂。
- 使ってはならない消火剤 : -
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、窒素酸化物や一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれているので、消火作業の際には、適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業には、必ず適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。多量の場合、関係者以外を安全な場所に退避させ、風上から作業する。漏出した場所の周囲にはロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。必要に応じた換気を確保する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
- 除去方法 : 少量の場合、吸着剤(土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 床を濡れた状態で放置すると滑り易く、スリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密閉しておく。
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い
- 技術的対策 : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 注意事項 : -
- 安全取扱い注意事項 : 作業場の換気を十分に行う。保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 保管
- 適切な保管条件 : 凍結、直射日光を避け、換気の良い屋内に保管し、保管時の温度が5℃以下及び40℃以上にならないようにする。
品質維持のため5～25℃に保ち貯蔵するのが望まれる。
使用後は、皮張り、腐敗防止のために、密栓(または密閉)して速やかに使用する。
- 安全な容器包装材料 : 製品使用の容器に準ずる。
8. 暴露防止及び保護措置
- 設備対策 : 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度 : 設定されていない
- 日本産業衛生学会 : 設定されていない

ACGIH	: 設定されていない
保護具	
呼吸器用の保護具	: 呼吸器保護具
手の保護具	: 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋。
眼の保護具	: 側板付保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面)
皮膚及び身体の保護具	: 静電気防止加工長袖作業衣等。
適切な衛生対策	: 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

物理的状态	: 液体
色	: 乳白色
臭い	: わずかな臭気

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点/凝固点	: データなし。
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 200～300℃

可燃性	: データなし。
-----	----------

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

爆発限界 上限	: データなし。
爆発限界 下限	: データなし。
可燃限界	: データなし。

引火点	: > 100 °C DIN EN ISO 2719
-----	----------------------------

自然発火点	: > 415 °C DIN 5179
-------	---------------------

分解温度	: データなし。
------	----------

pH	: データなし。
----	----------

動粘性率	: データなし。
------	----------

溶解性

水溶解性	: 可溶
溶媒溶解性	: 水で無限大に希釈可能

n-オクタノール/水分配係数(log値)	: データなし。
----------------------	----------

蒸気圧	: データなし。
-----	----------

密度及び/又は相対密度	: データなし。
-------------	----------

相対ガス密度	: データなし。
--------	----------

粒子特性	: データなし。
------	----------

その他のデータ	:
---------	---

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の実取り扱い条件において、光、熱、衝撃に対し化学的に安定。
危険有害反応可能性	: 知見無し
避けるべき条件	: 5℃以下の低温及び40℃以上の高温
混触危険物質	: 酸
危険有害な分解生成物	: 知見無し
その他	: 情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: LD50 >2,000mg/kg (計算値)(未知成分0%)
(経皮)	: LD50 >2,000mg/kg (計算値)(未知成分0%)
(吸入: 気体)	: 区分に該当しない(分類対象外)(計算値)(未知成分0%)
(吸入: 蒸気)	: 区分に該当しない(計算値)(未知成分0%)

- (吸入: 粉じん及びミスト) : LD50 > 5mg/l (計算値)(未知成分41.19%を含む)
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
- 眼損傷性及び眼刺激性 : 区分2
- 呼吸器感作性 : 区分に該当しない
- 皮膚感作性 : 区分1
- 生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない
- 発ガン性 : 区分に該当しない
- IARC : -
- 日本産業衛生学会 : -
- 生殖毒性 : 区分に該当しない
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
- 誤えん有害性 : 区分に該当しない
12. 環境影響情報
- 生態毒性 : 急性区分2
- 残留性/分解性 : 慢性区分2
- 生体蓄積性 : データなし。
- 土壤中の移動度 : データなし。
- その他のデータ : データなし。
13. 廃棄上の注意
- 残余廃棄物 : 焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)の特別管理廃棄物、消防法を遵守し、適正に処理する。
- 汚染容器及び包装 : 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。
14. 輸送上の注意
- 国内法規制 陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に該当する場合は定められている運送方法に従う。
- 海上輸送 : 船舶安全法に該当する場合は定められている運送方法に従う。
- 航空輸送 : 航空法に該当する場合は定められている運送方法に従う。
- 国際法規制 : 航空運輸はIATA、および海上輸送はIMDGの規制に従う。
- 国連分類 : クラス9(その他の有害性物質)
- 国連番号 : UN3082
- 国連品名 : 環境有害物質、液体、その他
- 容器等級 : P. G. III
- 海洋汚染物質 : P表示
- 輸送の特定の安全対策及び条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
15. 適用法令

国内適用法		
化審法	特定化学物質	: 優先評価化学物質(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)を含有する。
	監視化学物質	
	優先評価化学物質	
消防法	危険物	: 該当しない。
安衛法	表示	: 該当しない。
	有機則	: 該当しない。
	特化則	: 該当しない。
	通知対象物質	: 該当しない。
		: 変異原性が認められた既存化学物質
毒物劇物取締法		: 否
船舶安全法		: 危規則告示別表第1(有害性物質)
航空法		: 告示別表第1(その他の有害物質)
化学物質管理促進法(PRTR法)		
		: 該当しない。
労働基準法		: 疾病化合物
海洋汚染防止法		: X類物質
悪臭防止法		: 該当しない。

16. その他の情報

引用文献

1) 原料SDS

2) 社団法人 日本塗料工業会

※ ここに記載した情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。使用前のテストを含め、本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。

記載内容の問合せ先

会社	:	株式会社アイゾールテクニカ
担当部門	:	開発企画本部